

# Terence Conran:

テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする

2025

4/19  
(sat)

↳ 6/8  
(sun)

会場：福岡市美術館



# Making Modern Britain

コンランと彼がデザインした「コーン・チェア」  
1952年撮影 レイモンド・ウィリアムズ・エステート蔵  
Photo © Estate of Raymond Williams  
Courtesy of the Conran family,  
Conran Foundation and Conran IP LTD.

# 展覧会概要

「Plain, Simple, Useful (無駄なくシンプルで機能的)」なデザインが生活の質を向上させると信じ、個人の生活空間から都市、社会までを広く視野に入れ、デザインによる変革に突き進んだサー・テレンス・コンラン (1931-2020)。イギリスの生活文化に大きな変化をもたらし、デザインブームの火付け役にもなったコンランの人物像に迫る日本で初めての展覧会です。

昨年、東京ステーションギャラリーで開催、4月19日から福岡市美術館に巡回します。

戦後もまもなくのイギリスで、テキスタイルや食器のパターン・デザイナーとして活動を始めたコンランは、1960年代、ホームスタイリングを提案する画期的なショップ「ハビタ」をチェーン化して成功を収め、起業家としての手腕を発揮します。

そして、1970年代から展開した「ザ・コンランショップ」におけるセレクトショップの概念は、日本を含む世界のデザイン市場を激変させました。このほか、家具などのプロダクト開発、廃れていたロンドンの倉庫街を一新させた都市の再開発、書籍の出版など、関わった事業は多岐にわたります。いっぽう、1950年代からレストラン事業にも乗り出し、高級レストランからカジュアルなカフェまで50店舗以上を手がけ、モダン・ブリティッシュと称される新しい料理スタイルをイギリスの食文化に定着させました。また、長年あためていたデザイン・ミュージアムの設立構想を1989年、世界に先駆け実現させたことも大きな功績のひとつです。

本展は、パターン・デザインした食器やテキスタイルなどの初期プロダクト、家具デザインのためのマケット、ショップやレストランのアイテム、発想の源でもあった愛用品、著書、写真、映像など300点以上の作品や資料を展示します。また、彼から影響を受けた人々(トム・ディクソン/デザイナー、トーマス・ヘザウィック/建築家、ティム・マーロウ/デザイン・ミュージアム館長、フリックス・コンラン/コンランの孫、平野紗季子/フードエッセイストなど)のインタビュー映像を交えて、さまざまなコンラン像を浮かびあがらせます。会場構成はSKWAT。福岡市美術館のダイナミックな空間に合わせて、展示を再構築。単管を使用した会場構成もみものです。



会場風景「テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする」  
東京ステーションギャラリー、2024年、Photo:Yasuyuki Takaki

タイトル 「テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする」

会期 2025年4月19日(土)～2025年6月9日(日)

会場 福岡市美術館 福岡市中央区大濠公園1-6

時間 9:30～17:30 \*入館は閉館30分前まで

休館日 月曜日 \*ただし5/5(月・祝)、5/6(火・休)は開館し、5/7(水)は休館

観覧料 一般1,800(1,600)円、高大生1,000(800)円/小中生600(400)円 ※()内は前売料金

主催 テレQ、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス

企画協力 株式会社コンランショップ・ジャパン、泉川真紀事務所

後援 福岡県、福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団、FM FUKUOKA、CROSS FM、LOVE FM

展示構成 SKWAT

大好評で閉幕した東京展、会場構成を福岡市美術館の空間に合わせて再構築。  
新たな見どころや、限定グッズの展開、トークなど関連イベントも多数開催！  
展覧会公式インスタグラムで随時ご案内します。

Instagram @terence\_conran\_exhibition

デザインが暮らしを豊かにすること、  
いつでもこれが私にとって一番大事なことだった。

—テレンス・コンラン『マイ・ライフ・イン・デザイン』より



サー・テレンス・オルビー・コンラン

Sir Terence Orby Conran

1931-2020

ロンドン南西部サリー州イーシャーに生まれる。セントラル・スクール・オブ・アーツ・アンド・クラフツ（現セントラル・セント・マーチンズ）でバウハウスやアーツ・アンド・クラフツに影響を受け、ブリティッシュ・ポップアートの旗手エドゥアルド・パオロッツィにテキスタイル・デザインを学ぶ。テキスタイル、食器、家具のデザインを手がけるうち起業に目覚め、ライフスタイルショップ「ハビタ」や「ザ・コンランショップ」の経営で成功を取めた。その他、レストラン事業や出版業、都市開発まで多才を発揮。デザイン奨励と社会貢献を目的に1989年、世界初のデザイン・ミュージアムを設立。デザイン分野での功績と文化事業が評価され、1983年に英国王室より騎士（Knight Bachelor）に叙勲、サー（Sir）の敬称を許された。2020年、自邸バートン・コートで88年の生涯を閉じる。昨年、西新宿の「ザ・コンランショップ」は日本初出店から30年を迎えた。

写真：バートン・コート自邸にオフィスの機能を移し、以後コンランのメインの仕事場となった。  
バートン・コート自邸内の仕事部屋、2004年撮影 Photo: David Garcia

## デザイナー、コンランのはじまり Terence Conran's Designer Beginnings

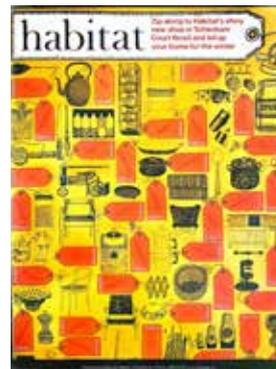
第二次世界大戦後のイギリスでブリティッシュ・ポップアートが生まれた頃、コンランはその先導者エドゥアルド・パオロツィからテキスタイル・デザインを学びました。政府による文化施策「英国祭」などが開催されたことが追い風となって斜陽だったテキスタイルをはじめとするデザイン産業が活気づくと、コンランが手がけたテキスタイルや食器のパターン・デザインが注目されるようになりました。また、家具の輸入販売に加え、鉄・木・籐を用いた椅子やキャビネットの製作販売をおこない、テイストメーカーとしての評価も得ていきます。



左：コンランのパターン・デザインによるディナープレート「チェッカーズ」、1957年  
右：コンランのパターン・デザインによるテキスタイル「モビール」、1950年、ターゲット・ギャラリー（ロンドン）蔵 Photo: Jonathan Richards, Courtesy of Target Gallery

## 起業の志：ハビタとザ・コンランショップ Retail Expansion: From Habitat to The Conran Shop

1960年代のロンドンには、ビートルズ、ツイッギー、マリー・クワントといったアイコンの登場とともに、音楽、アート、ファッションのジャンルで若者文化が炸裂した「スウィング・シックスティーズ」の時代でした。こうした時代の波に乗り、コンランは多岐にわたる事業を展開させます。ライフスタイルの提案をコンセプトに生活用品を扱う小売店「ハビタ」をチェーン化して大成功を収め、つづく1970年代に展開した「ザ・コンランショップ」は、今でいうセレクトショップの先駆けとして日本を含む世界のデザイン市場を大きく変えました。



左：「ハビタ2号店 開店告知ポスター」、1965年、デザイン：ヴァージニア・クライヴ・スミス、イラスト：ジュリエット・グリーン・スミス、Target Gallery, London、photo: Jonathan Richards ©Juliet Glynn Smith / Courtesy of Georgia Glynn Smith © J Sainsbury plc. Habitat is a trading name of Argos Limited in the United Kingdom, Argos Limited is a wholly owned subsidiary of J Sainsbury plc. 右：ザ・コンランショップの紙袋、1980年代、Terence Conran Archive, the Design Museum

## 食とレストラン Conran as Restaurateur

戦後のイギリスの食事情は長く衰退していましたが、新鮮な食材の入手が可能になると、コンランは1980年代後半から本格的なレストラン事業に乗り出し、高級レストランからカジュアルなカフェまでさまざまな食体験の場を提供し始めました。イタリア料理やフランス料理も意識しつつ、イギリスの伝統食材にハーブやスパイスを取り入れた「モダン・ブリティッシュ」の料理スタイルをイギリスに定着させます。コンランのこだわりは強く、レストランのコンセプトや内装はもちろん、ロゴ、メニュー、灰皿やマッチ箱などのアイテム、そしてスタッフの制服までディレクションするほどでした。



上：コンランが手がけたレストラン「ブルーバード」（1997年開店） Photo: Alex Pareias, Courtesy of Conran and Partners  
下：コンランが手がけたレストランのマッチ箱

## バートン・コート自邸 Barton Court, a Country Home in Berkshire

1970年代後半、コンランはバークシャー州キントベリーに建つ18世紀後半の赤レンガ邸宅「バートン・コート」を自邸としました。ここで菜園や庭いじりを楽しみ、レストラン用のレシピ開発や雑誌用の撮影をすることもあれば、隣接する家具工房ベンチマークのためのスケッチに没頭することもありました。バートン・コートの仕事部屋には、クラシックとモダン、精巧と素朴、大胆さと繊細さ、自然と人工といった性質の対比物の愛用品が絶妙なバランスで置かれ、コンランのインスピレーションの源となっていました。これらの愛用品の一部を本展では没後初めて紹介します。



左：バートン・コート自邸、2004年撮影 Photo: David Garcia  
右：コンランが所有していたベダルカーのおもちゃ Photo: Jasper Fry

## ものづくり：ベンチマークとプロダクツ

### The Joy of Craft: Benchmark and Product Design

バートン・コート敷地内にある家具工房ベンチマークは、1984年、シヨン・サトクリフという若者にコンランが制作の場を与えたことから始まり、約40年たった今、有名建築家や企業から注文を請け負うヨーロッパ随一の工房になりました。熟練した職人やデザイナーが専門分野をそれぞれ極めるいっぽう、多くの地元の若者に雇用の機会を与えていることも同社の特徴です。コンランは週末に描きためた家具などのスケッチを、月曜日の朝になるとここに持参し、必ず小さなマケットで試作してから実作に取りかかったといえます。家具職人を自称していたコンランにとって、まず自らの手を動かすことがものづくりの基本でした。



左：コンランがデザインした家具の模型、ザ・コンランショップ（UK）蔵  
右：コンランによるシェルフのアイディアスケッチ

## 再生プロジェクトと建築／インテリア

### Regenerating Architecture and Urban Areas

ハビタの成功をきっかけに企業から大きなプロジェクトの依頼を多く受けるようになったコンランは、1980年、建築家フレッド・ロシェと建築設計会社を立ち上げ、斬新な発想と実行力でロンドンの街並みを一新させていきました。チェルシーの古いミシュランビルを入手し、ザ・コンランショップの大型店やレストランをオープンさせて見事に再生させます。また、当時廃れていたシャッド・テムズ地区のレンガ倉庫街だったバトラーズ・ワーフは、集合住宅、レストラン、オフィス、美術館などを含む人気エリアとして生まれ変わりました。建築とデザインを融合させたプロジェクトの数々にコンランは大きなやりがいを見出し、いきました。



左：改修されたミシュランビル（レストラン「ピバンダム」とザ・コンランショップ、1987年改修）

## 日本におけるプロジェクト

### Projects in Japan

1980年代から1990年代初頭にかけてバブル経済を謳歌した日本では、ファッションを中心に華々しい消費文化が隆盛しました。建築やプロダクトデザインなどの分野で世界的評価を得る成果も生みだされました。そしてバブル崩壊の余韻が残る1994年、ザ・コンランショップは日本初上陸。これを機にコンランは日本でのプロジェクトに携わるようになります。赤坂のアーキヒルズ内の「アーキヒルズクラブ」内装デザインに始まり、リゾートホテル「二期倶楽部」や六本木ヒルズのレジデンス棟などを手がけます。2019年、グローブ・トロッター社から限定販売されたトラベルケースは、旅の思い出やアイディアスケッチで埋め尽くされたコンラン最晩年のデザインとなりました。



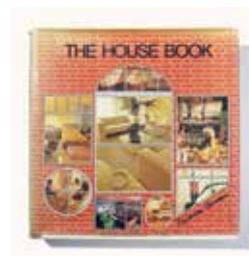
上：「ザ・コンランショップ」東京オープン当初 Photo: Hiroyuki Hirai ©Hirai Photo Office

下：コンランがデザインしたトラベルケース「トラベル・ザ・ワールド」（グローブ・トロッター製）、2019年、個人蔵

## 未来にむけて

### Looking Ahead

住宅に関するハウツーやアイデアにあふれるコンランの著書『The HouseBook』は、販売数250万部以上を記録した大作本です。自ら出版社を有し、関わった書籍数は約80冊にのぼりますが、出版と同じく力を注いだのがデザイン・ミュージアムの設立構想です。1982年、コンランはヴィクトリア&アルバート美術館の一角に「ボイラーハウス・プロジェクト」を立ち上げ、ここで5年間小規模なデザイン展を開催。1989年にバトラーズ・ワーフの再開発エリアに世界初の産業デザインに関するデザイン・ミュージアムを開館させました。さらに25年後、サウスケンジントンへの移転計画を立て、面積を3倍に拡張した現在のデザイン・ミュージアムが2016年に開館。私財を投じて実現させたデザイン・ミュージアムはデザインの魅力だけでなくデザインが社会に果たす役割や意義を考える重要な発信地となっています。



左：コンランの著書『The House Book』（ミッチェル・ピーズリー刊）、1974年  
右：バトラーズ・ワーフ界隈のシャッド・テムズ地区にオープンした最初のデザイン・ミュージアム（1989-2016） Courtesy of the Design Museum

# Museum Goods



『Who is Terence Conran?』  
A BOOK FOR THE EXHIBITION  
Terence Conran: Making Modern Britain

展覧会開催に合わせて制作された書籍。展覧会「テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする」の副読本として、テレンス・コンラン卿の人生を年表形式でまとめています。展覧会に出展されていない資料や写真も含まれ、副読本としてとても充実した内容となっています。¥3,300

展覧会限定で展開するミュージアムグッズは、コンランが残した言葉や信条やスケッチ、コンラン自身をモチーフに描き下ろしたイラストなどを取り入れたものや、ザ・コンランショップがこれまでに展開したグラフィックデザインを施したグッズや複製品まで、どれも日々を楽しむ豊かな気持ちにするアイテムばかりです。



ステンレスボトル (左) ¥6,050  
ウォーターボトル (右) ¥2,530  
マグカップ各¥1,980



カセットプレーヤー  
¥6,600



クリップ  
大 ¥3,410  
小 ¥2,970



バッグ  
S ¥660 M ¥880 L ¥1,100



歯ブラシ各 ¥693



ミニノートブック  
PLAIN SIMPLE USEFUL 3冊セット  
¥990



一筆箋  
¥1,650



ポストカード各 ¥220



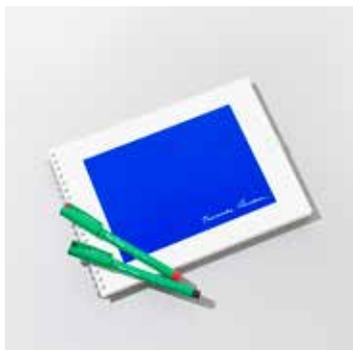
ミニ封筒  
各 ¥495



付箋  
左 各 ¥594  
右 ¥880



ステッカー  
各 ¥440



スケッチブック ¥1,980  
ペン (赤、黒) 各 ¥385

# Museum Goods



クリアファイル  
各 ¥550



AND THE FRIET 特別パッケージ  
6P セット ¥2,310



養生テープ  
各 ¥1,496



傘 (60cm)  
¥4,620



バンダナ  
上・中 ¥1,760  
小 ¥2,640



ポスター  
¥2,200



書籍「Terence Conran Making Modern Britain」著：デヤン・スジッチ  
各 ¥7,480



トートバッグ  
大 ¥3,300、小 ¥2,200



トートバッグ  
¥2,750 ~



Tシャツ  
各 ¥4,950



コーヒー 5P ¥1,980  
紅茶 ¥4,125 ~

## [PRESS CONTACT]

展覧会に関するご質問、広報用画像、取材、掲載等のお問合せは下記担当者までご連絡ください。

竹形尚子／デイリープレス  
naotakegata@dailypress.org  
090-1531-6268 03-6416-3201